

福岡県剣道連盟 居合道だより

第017号

平成19年12月1日発行
発行人 迫野 康雄
(社)福岡県剣道連盟居合道部
<http://iai.riai.info/>
〒807-0842
北九州市八幡西区永犬丸東町 3-16-13
Tel:093-612-1512
編集人 上田 武尚

はじめに

獅子はわが子をわざと谷底につきおとす。はげしい気迫である。きびしい仕打ちである。だがそのきびしさのなかで、幼い獅子は決してへこたれない。必死である。真剣である。そして、いくたびかころび落ちながらも、一步一步谷底からはい上がる。はい上がるなかで、はじめて自立を会得する。他に依存せず、みずからの力で歩むことの大事さを、みずからの身体でさとる。そこから獅子本来のたくましさ芽生えてくる。

自得するには、きびしさがある。勇気がある。ときには泣き出したいような、途方に暮れるようなことであろう。泣くもよし。嘆くもよし。しかし次の瞬間には、新たな勇気を生み出さねばならない。

居合の稽古もきびしい修練の積み重ねが、自得への第一歩ではないか。たくましい自立への道をみずからさとる貴重な道標^{みちしるべ}ではないか。勇気をだそう。自得へのきびしい日々を覚悟したいものである。

(松下幸之助翁の道をひらくより)

主な出来事

10/28 七段稽古会 明德館道場
指導者層の強化を目的に約20名の先生方が集まり熱心な稽古会が開催された。

11/10 教士称号筆記試験開催
福岡市護国神社会議室
福岡会場には5名の受審者が挑戦した。

1 時限目 (13:30~14:20 50分間)

1. 全日本剣道連盟居合(解説)について
2. 居合道試合・審判規則、同細則について

2 時限目 (14:30~15:20 50分間)

3. 剣道指導の心構えについて
4. 「称号(教士)の付与基準」と「称号の受審資格」について

5. 安全・健康について

3 時限目 (15:30~16:30 60分間)

6. 小論文(700字程度)

以上、大変濃厚な筆記試験が実施され受審者は約3時間、回答にチャレンジした。

今回の出題の中から1問を紹介します。

『刀を安全に取り扱うための「目釘」について答えなさい。』

回答

目釘穴合わせ

組付けにおける最終的締付けを適正とするために、柄木の目釘穴に対し茎の目釘穴は柄頭方向に多少見える様にする。

両方の穴径は当然等しく、目釘は穴径に対してきつい嵌合とする。

目釘について

目の良くつんだ古竹(真竹)が一般的であり最も適している。

材質は、真竹、金属、水牛、梅の木等。

目釘の挿入

竹表面側(表)を柄頭方向とし、目釘は柄木巾よりやや長くする。

目釘については、大変重要なことです。よく覚えて下さい。そして日頃の稽古始には必ず目釘の安全を確認する習慣を身に付け、事故の無いように努めましょう。特に初心者への指導を繰返し実施して欲しいものです。

『この一年間のあゆみ』



12/1月の予定

12/9 居合道部錬成会

糟屋ドーム

12/23 居合道段位審査会(六段・七段)

東京都

1/20 初稽古会

福岡武道館